

「脳卒中の 緊急医療補助 システムの開発」



日時 平成23年 4月8日(金) 17:00~18:00

会場 パシフィコ横浜 会議センター「304」

司会 福田 国彦 先生 (東京慈恵会医科大学 放射線医学講座教授)

1 脳血管内治療の最前線

村山 雄一 先生 (東京慈恵会医科大学 脳神経外科学教授)

2 脳卒中の救急医療補助システムの研究

高尾 洋之 先生 (東京慈恵会医科大学 脳神経外科学)

3 救急医療補助システムi-Strokeの今後

中村 博明 (富士フイルム(株) メディカルシステム事業部)

1 脳血管内治療の最前線

村山 雄一 先生 (東京慈恵会医科大学 脳神経外科学教授)

近年、脳卒中に対する治療法は、血管内手術の導入により飛躍的な進歩を遂げたが、その要因として血管撮影装置などの画像機器のめざましい進歩や治療用の離脱式コイル、ステント血栓除去デバイスなどの医療材料の進歩が挙げられる。とりわけ画像診断装置やソフトウェアの進歩により短時間で高画質の3次元画像診断が可能となり、より効果的な治療のシミュレーションや遠隔治療が可能となった。こうした技術革新を実際の臨床にまで応用するためには産学共同研究が不可欠であり、本講演では本邦において遅れていた共同研究開発—臨床応用への道のりについて述べる。

2 脳卒中の救急医療補助システムの研究

高尾 洋之 先生 (東京慈恵会医科大学 脳神経外科学)

東京慈恵会医科大学では、2009年10月よりiPhone / iPadを活用した脳卒中の救急画像診断補助システムの研究を行ってきた。2010年7月から本格的な普及を目指し富士フイルムと共同研究を開始し、同年8月よりi-Strokeシステムを臨床に実験的に導入した。i-Strokeシステムは、スマートフォンを用いた医療用画像転送診断補システムとしては初めて、Time Line、Stroke call、Tweetなど様々な機能を搭載したシステムである。現在(2010年11月)、16症例でこの機能を活用し治療が行われている。このシステムの臨床使用における利点・限界や現在開発中の新しい機能(i-Hospital:病院間簡易連携システム)を含めて紹介・解説する。

3 救急医療補助システムi-Strokeの今後

中村 博明 (富士フイルム(株) メディカルシステム事業部)

富士フイルムは、東京慈恵会医科大学との共同研究として、i-Strokeの研究開発を行ってきた。i-Strokeは、救急医療に貢献する社会的に意義のあるシステムソフトウェアと考え、積極的に開発に取り組んでいる。ここでは、i-Strokeシステムソフトウェアの応用や今後について報告する。